

# 大杉谷国有林からの手紙

50通目～写真で振り返る、大杉谷からの手紙～

2021年3月

大杉谷の手紙は、平成27年の初号から数えて50号の大台を迎える事ができました。今回、節目の号として、これまで掲載した手紙の総集編として振り返って行きたいと思います。

## (1) 大杉谷に住む多様な動物達

初めの写真は手紙35号に掲載した、林道に座り込むニホンジカの写真です。雨の中で母親と子鹿の2匹が休憩していたところ、私たちの車と鉢合わせしてしまいました。

その後も全く動かずにじっとしていたので、同乗の方に見てもらい車で避けようとする、ぴよんぴよん跳びはねながら、林道上を走って行きました。時々林道上で大人のシカに合うと、この子が成獣となり会えているのかな～と思うと少し感慨深い気持ちになります。



写真1 林道に座り込むシカの子



写真2 林内を歩くツキノワグマ

次にご紹介する写真は、39号に掲載したツキノワグマの写真です。手紙内でもご紹介しましたが、餌の無い春先から夏にかけて、樹勢の良い木の樹皮を剥いでしまう、「クマ剥ぎ」の被害が増えるため、林業にとっては頭の痛い問題です。大杉谷国有林内でも今年は特に多くの目撃情報が寄せられ、全国でもクマが市街地に降りてきているニュースを見ると、広葉樹のドングリの豊凶等が影響し、餌が少なくなっていたのかもしれない。

動物最後の写真は、42号でご紹介した野鳥「ヤマガラ」の別写真です。写真にもある白いエゴノキの実を必死になってついばみ、忙しそうに林内を飛び回っていました。

大杉谷には他にもカケスやキセキレイ、キビタキ等の山野に生息しており、各々が大きな声で鳴いて縄張りを主張しています。

もし大杉谷国有林内を登山される際は、よければ歩きながら少し耳を澄ましてみてください。自然の中で一生懸命に生きる鳥たちの詩が聞こえてくるとと思います。

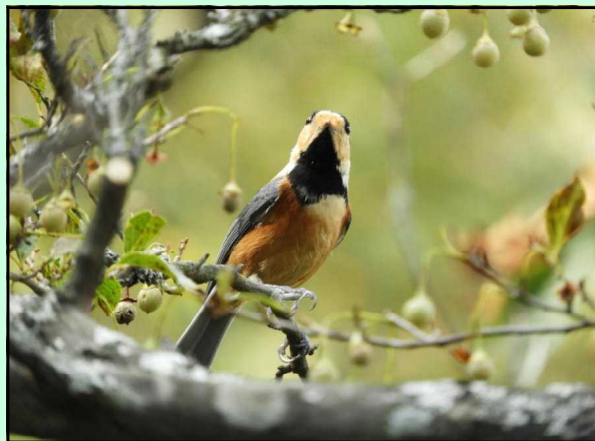


写真3 こっち向いているヤマガラ



写真4 春の大杉谷 堂倉滝と堂倉吊橋

夏の写真は、林道上から大杉谷国有林を一望した写真です。晴天の日は景色が良いのもさることながら、33号でご紹介したオオルリがヒノキのてっぺんに止まって綺麗な声で求愛し、41号のカエルやトンボなど含め色々な動物や昆虫たちが活発に動く季節です。山登りの際は熱中症の危険があるなど注意が必要な時期でもあります。水分補給等して、大杉谷の雄大な自然や動物達を堪能してください。

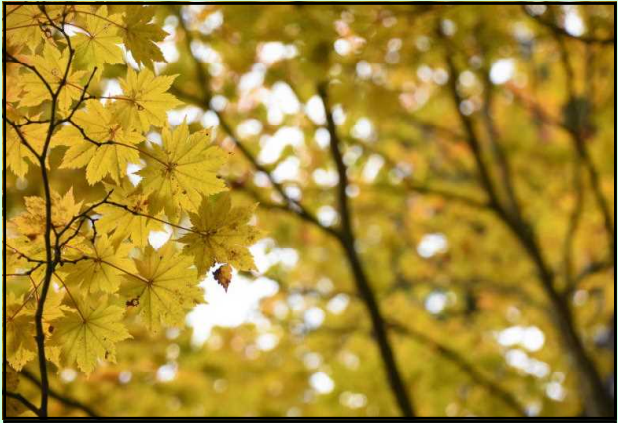


写真6 秋の大杉谷 紅葉するモミジの葉

四季最後の冬の写真は、今年12月に大杉谷で撮影した写真です。冬の大杉谷については44号でもご紹介しましたが、あたり一面真っ白となりとても綺麗な景色を見せてくれます。

ただこの写真を撮ったときも気温は氷点下で、今までとは打って変わり厳しい表情を見せるようになります。シカ達も冬の時期は、山を下りて低地に移動している事が多く、春になるまでは動物たちにとっても極寒の地のようなのです。

## (2) 大杉谷の四季折々の風景

ここからは大杉谷の四季の風景をご紹介します。初めの写真は31号でご紹介した、春先の大杉谷登山パトロールで撮影した堂倉滝の写真です。遠くまで轟く水量が流れ、風向きによっては、こちらまで水しぶきが飛んでくるほどの瀑布（ばくふ）です。

他にもニコニコ滝や光滝など、多くの瀑布が登山道から見えますが、これほど間近で見れるのは堂倉滝だけです。登られる際は是非見て欲しいおすすめの風景です。



写真5 夏の大杉谷 晴天の大杉谷国有林

秋の写真は、大台ヶ原で撮影したモミジの黄色い紅葉をご紹介します。36号でブナの紅葉をご紹介したように、葉の色素の変容により、様々な色の葉が織りなすグラデーションが山々を彩ってくれています。

秋には隣接する大台ヶ原に多くの観光客が訪れ、四季一番の賑わいとなります。私も幾度となく登りましたが、圧巻の景色なので是非機会があれば見ていただきたいですね。



写真7 冬の大杉谷 山肌の雪化粧



写真8 水越谷線跡に遺るレールと枕木

次の写真は46号でご紹介した、東洋一の  
大杉谷大鉄索での人員輸送の写真です。

深さ15cmほどの箱には様々な逸話が残っ  
ていますが、当時索道に乗った方々の渡り  
きった高揚感、渡る前の不安を吐露した俳  
句が現在にも伝わっています。また、旧造  
林宿舎を改修して作られた栗谷小屋宿舎の  
入り口には、人員輸送の箱が看板に再利用  
されて残っていて、当時の面影を見ること  
ができます。



写真10 大杉谷に今も残る立派な宮標石

これまで50号もの手紙で紹介してきた事柄は、大杉谷国有林の一部分に過ぎず、まだまだ語り尽くせないほど沢山の魅力が詰まった場所です。これからも大杉谷国有林の良さを発信していきます。私からの手紙は最後となりますが、51号からは次にバトンを託したいと思います。長文となりましたが最後までお読みいただきありがとうございます。

**2021年3月**

**編集：三重森林管理署 尾鷲森林事務所 係員**  
**発行：三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官**

### (3) 大杉谷国有林の歴史的な遺構

最後は、大杉谷の歴史の写真から振り返っ  
ていこうと思います。

まず最初の写真は、38号でご紹介した水越  
谷（みずこしだに）森林鉄道跡に今も遺るレ  
ールと枕木の写真です。昔を知る方に話を伺  
うと、真っ直ぐなレールは再利用され、利用  
がしにくい曲線の部分が残っているとの事だ  
した。ただ急峻な谷部をまたいで設置されて  
いる為、ここまで綺麗にレールや橋脚が遺っ  
ている箇所は今もほとんど無く、過去を知る  
貴重な資料となっています。



写真9 大杉谷大鉄索での人員輸送

歴史最後の写真は最新49号でご紹介した、  
宮標石の写真です。

これは大杉谷国有林が昔、宮内庁の御料  
局（後に帝室林野局に変更される、林野庁  
の前身）直轄の御料林であったことの証で  
す。写真では一部分しか見えていませんが、  
四角が15cm × 15cm で、長さは約70cm もあ  
る1つの石です。私が歩いた区間だけでも20  
数点存在していました。重い石を人力で運  
んで埋設してくれた先人達の苦勞が偲ばれ  
ます。